

住居權、旅行權及各種財產ノ所有權及適法ニ獲得シ又ハ相續、遺囑或ハ其他ノ方法ニ因テ移轉シ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ内國若ハ最惠國民ト同様ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且内國若ハ最惠國民ニ課セラルヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ其心ニ關シ完全ナル自由ヲ享有シ法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利並ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ股置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、陸軍軍、民兵等ニ關シテ陸軍ニ關シテ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦款或ハ捐資ヲ免カレヘシ土地又ハ不動產ノ所有ヲ許可セラルル時ニ當リテハ土地又ハ不動產ノ所有ニ附著スル所ノ賦課金及其ノ所有者、小作人若ハ賃借人トシテ一般ノ内國臣民カ負擔スルコトアルヘキ軍事上ノ賦役及徵收ハ前項ノ限ニ在ラス

第三條

兩締盟國ノ版圖ノ間ニ相互ニ通商及航海ノ完全ナル自由アルヘシ

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居、工業若ハ商業ノ爲ニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舖及之ニ屬スル地ヲ附屬構造物ハ使スヘカラス右家宅等ハハ限ニ侵入搜索スヘカラス又船隻、倉庫或ハ海運便於檢査點閱スヘカラス但シ内國或ハ最惠國民ニ對シテ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ換地利洪牙利帝國内ニ輸入シ又

換地利洪牙利帝國内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ一方ノ版圖内ニ輸出スル一切ノ物品ハ他ノ各外國ニ輸出スル同種ノ物品ニ對シテ賦課スル所ノ賦課金ヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ヲ輸出スルニ非サルハ他ノ一方ノ版圖内ニ同種ノ物品ヲ輸出スルコトナカレ止セラルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テ内地通過稅ノ免除ヲ享ケ且倉入、獎勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享ケヘシ

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ到ル他ノ一方ノ國人、工業者及注文取集商カ見本トシテ輸入シタル總テノ有稅物品ニ對シテハ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メタル期限内ニ賣捌カレシメテ再輸出スルコトナリ而シテ右再輸出ノ爲メ又ハ稅關倉庫ニ送戻スル

稅關手續ヲ履行スルニ於テハ輸出入稅ヲ免除スヘシ但シ右見本ノ再輸出ニ付テハ兩締盟國ノ版圖内ニ於テ最初ノ輸入地ニ於テ其ノ輸入ノ際稅金ニ均シキ金額ヲ預ケ入ルルカ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

第九條

國、市、町、村若ハ團體ノ爲ニスルニ關シテ兩締盟國ノ一方ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ或物品ノ生産、製造又ハ消費ニ對シ内國稅ヲ賦課スルトキハ他ノ一方ノ版圖内ヨリ輸入セラルタル同種ノ物品ニ對シテモ前記ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ同一ノ稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦換地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右諸港ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セラルヘシ又換地利國又ハ洪牙利國ノ諸港ヘ換地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコト

トナ得此ノ場合ニ於テハ換地利國又ハ洪牙利國船舶カ右諸港ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セラルヘシ右右相對等ノ取扱ハ右物品ノ直チニ原産地ヨリ到ルトキノ他ノ場所ヨリ到ルトキ間ハ必ス之ヲ施スモノトス

第十一條

政府、官吏、公吏、一人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢査費其ノ他ノ同種若ハ之ニ類似ノ稅金ハ其ノ性質並ニ名稱ノ如何ニ拘ハラズ同一ノ條件ヲ以テ同種ノ場合ニ於テ内國船舶又ハ最惠國ノ船舶ニ課スルモノニ非ザルヘシ兩締盟國ノ一方ノ其ノ版圖内ノ諸港ニ於テ之ヲ檢査スル船舶ニ課セラルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一ナルヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ船積、船舶ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ内國船舶ニ許典セラル特典、殊遇ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許典セラルヘシ但シ本件ニ關シテ

モ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十三條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ換地利洪牙利帝國内ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル換地利國又ハ洪牙利國臣民ハ總テ沿海貿易ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ニ依リ他ノ外國臣民ニ許典シ若ハ許典セラルヘキ權利及特典ヲ享有スルモノトス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ理由ノ爲メ已ムナ得ズ他ノ一方ノ海港ニ於テ避難スルモノハ右ノ如キ場合ニ於テ内國船舶ノ拂フヘキ稅金ノ外何等ノ稅金ヲ拂フコトナカレ其ノ港ニ於テ修繕ヲ爲シ必要ナル一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スル



效ニ歸スルモノトス右稅目ノ無効ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル埃地利、洪牙利國ノ生産若ハ製造ニ係ル貨物ニ對シテハ日本國ノ新關稅則及日本國ノ諸外國トノ間ニ締結シタル條約ニ規定セル特別稅則ヲ適用スルモノトス而シテ兩締結國間ノ現行條約有效ナル間ハ其ノ第二十條ノ規定ニ依リ爾後ハ本日調印シタル條約第五條及第十七條ノ規定ニ依テ擔保セル最惠國ノ取扱ヲ維持スルモノトス

他日日本國ノ關稅則ニ改正ヲ加フルコトアルトキハ埃地利、洪牙利國ノ生産若ハ製造ニ係ル貨物ニ適用スル六箇月前ニ之ヲ公布スヘキモノトス

純真ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、蠶製ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ彫刻製又ハ其ノ他公安若ハ風俗ヲ妨害スヘキ物品若ハ日本國及埃地利、洪牙利國ニ於テ發明ノ事實特許、商標及版權ヲ規定スル法律ニ違背スル物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スヘキ日本國及埃地利、洪牙利國ノ權利ハ本日調印シタル條約、本條約及追加條約ニ記載スル規定ノ爲ニ制限セララルコトナカルヘキモノトス又此ノ相互ノ權利ハ人身衛生ヲ目前トシタル禁止又ハ家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル禁止ニモ適用スヘキモノトス

本日調印シタル條約及本條約ヲ以テ擔保セララル關稅三關スル最惠國手續ヲ適用スルニ方リ實際上不満足ト認メラレタル場合ニ於テハ兩締結國ハ各特別重要ナル物品ニ適用スヘキ協定稅則ヲ議定スルコト同意スヘシ前項ノ實施ハ之ヲ他日ニ保留シ兩締結國ハ本

日調印シタル追加條約ヲ以テ千九百三十一年三月三十一日迄特ニ重要ナル或物品ニ適用スヘキ輸入方法ヲ約定セリ

此ノ外總テノコトニ付テハ現行條約及其ノ附屬條約定ハ本日調印シタル通商航海條約ノ實施セララルニ至ル迄ハ其ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第五 條約第十八條ニ付  
兩締結國ハ專賣特許、意匠、雛形ノ保護ニ關シテ別ニ條約ヲ締結スルコトアルヘシ而シテ之カ爲メ適當ノ時期ニ至リ相當ノ商議ヲ開クヘシ

日本國政府ハ日本國ニ於ケル埃地利、洪牙利國領事裁判權ノ廢止ニ先チ工業所有權ノ保護ニ關スル列國巴黎條約ニ加入スヘキコトヲ約ス

第六 條約第二十條ニ付  
日本國内ニ於ケル埃地利、洪牙利國ノ領事裁判權ハ本日調印シタル通商航海條約全部ノ實施ト同時ニ自然ニ消滅スルニ拘ハラヌ右條約全部實施ノ時ニ當リ既ニ審理中ニ係ル裁判ノ事件ニ關シテハ其ノ最終判決ニ至ル迄ハ該裁判權ヲ繼續スルコト同意ス

本條約書ハ其ノ附屬シ居ル條約ノ批准交換ヲ終ルト同時ニ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ兩締結國ニ於テ之ヲ承認セシモノト看做スヘシ

本條約書ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト同時ニ效力ヲ失フヘキモノトス

右條約ニシテ兩國全權委員ハ本條約書ニ記名調印スルモノトス

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書ニ通テ作ル

追加條約  
高平小五郎印  
ゴルホウスキー印

下名ノ維也納條約日本國皇帝陛下ノ特命全權公使及埃地利、洪牙利國皇帝陛下ノ外務大臣ハ本日締結セララル通商航海條約附屬ノ條約ノ規定ニ基キ左ノ條約ヲ約定ス

第一條  
日本國ノ新關稅則(前記通商航海條約第五條ニ關スル條約第四項第一節)實施セララルト同時ニ埃地利、洪牙利國ノ生産若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ日本國ニ輸入ノ際左ノ稅課スヘシ

從價稅率

一 皮膚用具、血鉢並ニ染料ヲ施シタル其ノ他ノ鐵板及鋼板製ノ器具 (彩色シ若ハ彩色セサル)	百二付十
一 ランプ各種並ニ金屬製若ハ玻璃製	同
一 部分品及附屬品	同
一 曲木製家具類(各種)	同
一 珠寶、金銀細貨類(假製)	同
一 磁器類(各種)	同
一 玻璃製品、クリスタル玻璃及玻璃類(意匠畫ナク)	同
一 殺蟲粉	同
一 馬	無稅

從價稅ハ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル商品ノ原價ニ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸路運ニ至ル迄ノ運搬費及保險料ヲ加ヘ又手動料アルトキハ之ヲ加ヘテ算定スヘキモノトス

第二條  
埃地利、洪牙利國ノ物品カ日本國ニ於テ前記ノ取物ヲ享クル日ヨリ日本國内ノ生産若ハ製造ニ係ル

物品ハ埃地利、洪牙利國ノ關稅施行範圍内ニ輸入ノ際最惠國ノ取扱ヲ享スヘシ 日本國ノ生産若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ埃地利、洪牙利國ノ關稅施行範圍内ニ輸入ノ際左ノ輸入稅課スヘシ	(H.M.P.M. No. 15)
一 蠶繭及未タ熟ニセサル層物	無稅
一 生絲(繃リタル又ハ捻リタル)	無稅
一 絹織物(生)	無稅
一 純絹布類(無摺)	二百フロリン
一 夢祥サリタ(各種平紐ノ形チ爲シタル他物ヲ交ヘサル)	二 フロリン
一 鐵紙	十八フロリン
一 磁器	五 フロリン
第一 白地ノ	
一 着色シタル、線取シタル、描キタル、形付ノ及鍍金若ハ鍍銀シタル	十 フロリン
一 生絹(古絹ノ斷片及屑トモ)	無稅

第三條  
本追加條約有效期間中日本國ニ於テ追加條約第一條ニ記載セル商品ニ對シ一層利益アル取扱ヲ第三國ニ許與シタル場合ニハ本日調印シタル通商航海條約ノ屬屬定書中第五條ニ關スル第四項ノ規定ニ基キ埃地利、洪牙利國ノ生産若ハ製造ニ係ル同一ノ商品ニモ右同様ノ取扱ヲ適用スヘキモノトス

又本追加條約有效期間中ニ埃地利、洪牙利國ニ於テ本追加條約第二條ニ記載セル商品ニ對シ第三國ノ爲ニ第一層減價シタル輸入稅許與シタル場合ニハ日本國ノ生産若ハ製造ニ係ル同一ノ商品ニモ亦右減價シタル輸入稅適用スヘキモノトス

第四條

本追加條約ハ日本國ノ新關稅則實施ノ日ヨリ效力ヲ生シ千九百三十一年十二月三十一日迄在續スルモノトス

埃地利、洪牙利國ニ於テ本日調印シタル通商航海條約第二十三條ノ規定ニ基キ該條約第五條第一項ヲ無効ニ歸セシムルノ意思ヲ通知シタルトキハ本追加條約ハ右通知ノ日ヨリ十二月月終タル後無効ニ歸スヘキモノトス

本追加條約ハ本日調印シタル條約ノ批准交換ヲ終ルヲ以テ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ兩締結國ニ於テ之ヲ承認セシモノト看做スヘシ

右條約ニシテ兩國全權委員ハ本追加條約ニ記名調印スルモノトス

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書ニ通テ作ル

高平小五郎印  
ゴルホウスキー印

明治三十一年九月十日  
外務省告示第十五號

明治三十年十二月五日帝國政府ト埃地利、洪牙利國政府トノ間ニ締結セララル通商航海條約ハ未タ批准交換ノ運ニ至ラサルトモ今般兩國政府間ニ於テ該條約ヲ明年七月十七日ヨリ又該條約ノ追加條約ヲ同年一月一日ヨリ實施スルコトニ協定シタリ

明治三十一年十二月七日  
外務省告示第二十號

明治三十年十二月五日帝國ト埃地利、洪牙利國トノ間ニ於テ締結セララル通商航海條約ハ去ル十一月三十日批准交換ヲ了ヘタルヲ以テ同條約第十八條及第二十三條第三項ニ依リ帝國臣民ハ同日ヨリ

埃地利、洪牙利國ニ於テ專賣特許、意匠、雛形、製鐵、商標、商社號及商標ニ關シ埃地利、洪牙利國臣民ト同一ノ保護ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二十一款 希臘國

希臘國修好通商航海條約  
明治三十二年十月十二日  
勅令 外 大臣閣下

朕明治三十二年六月一日希臘國與典ニ於テ朕カ全權委員ト希臘國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本國及希臘國間修好通商航海條約

日本國皇帝陛下及希臘國皇帝陛下ハ兩國間並ニ其ノ臣民間ノ友好通商ノ關係ヲ永久堅固ノ基礎ニ設クコトヲ欲シ茲修好通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ特命全權公使並ニ牧師三等勳章御下命希臘國皇帝陛下ハ外務大臣セイヴォール勳章ノ「ナイト」アトス、ローマノ「スナ」其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ真好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定決定セリ

第一條  
日本帝國ト希臘王國トノ間並ニ兩國臣民ノ間ニ永久堅固ノ和親アルヘシ

第二條  
日本國皇帝陛下ハ適宜ニ其ノ外交官ヲ希臘國ニ駐割セシムルコトヲ得希臘國皇帝陛下モ亦適宜ニ其ノ外交官ヲ日本國ニ駐割セシムルコトヲ得ヘシ又兩締結國ノ一方ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ最惠國領事官ノ駐在ヲ許シタル各港、各地ニ該領事、領事、副領事若ハ代辦領事ヲ駐在セシムルノ權利ヲ有スヘシ但シ該領事、領事、副領事若ハ代

辨領事ハ其ノ職務ヲ執行スルニ先テ常式ニ從ヒ其ノ任國政府ノ認可ヲ經ヘシ

第三條

兩締盟國ノ領土及所屬地ノ間ニ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ

第四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置クノ主意ヲ有スルニ因リ

第五條

希臘國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ日本國ニ輸入シ又日本國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ希臘國ニ

輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニシテ同種ノ目的ヲ以テ輸入スルモノニ對シ

第六條

內地通過、倉入、獎勵金、便益及税金拂戻ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他

第七條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル

兵員皆泊ノ義務、陸海軍ノ強迫兵役、軍事上ノ賦

第十三條

及及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ海難ニ乘ルケルハ難破シタルト

第十五條

日本國若ハ其ノ領海ニ到來スル希臘國臣民及船舶ハ其ノ日本國若ハ其ノ領海ニ在ル間ハ日本國法律

第十四條

外交

第二章

各國條約及附則

第二十二款

ギリシヤ國

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ヲ以テ之ヲ規定スヘキモノトス

第九條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サル可キ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又希臘國ノ國法ニ從ヒ希臘國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ希臘國船舶ト見認ムヘシ

第十條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其他ノ危險ニ遭遇シ難難ノ爲メ已ムテ得ズ他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ内國船舶ノ拂フヘキ税金ノ外何等ノ税金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ更ニ賦課スル一切ノ需要品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支拂スル

明治三十三年六月一日即千八百九十九年五月十日雅興ニ於テ六通ヲ作ル

御名

國

外務大臣子爵青木周藏印

ア、ローマンズ印

天祐ヲ保シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

閣下

閣下

閣下

閣下

第二十二款

ギリシヤ國

關スル宣言書

明治三十三年七月二十五日



在ル他ノ一方ノ船舶内ニ於ケル規律ニノミ關スル事項ニシテ及ホスコトナカルヘシ  
第十一條  
兩國領土及領地ニ於テ其ノ身體及財產ニ對シテ他ノ一方ノ臣民若ハ人民ニ附與セラレタル同種ナル完全ノ保護ヲ享受シ其ノ正當ノ權利ヲ執行シ及防護セムカ爲メ自由ニ裁判所ニ到ルコトヲ得ヘク且裁判所ニ於テハ內國臣民若ハ人民ト同權ニ訴訟代理ハ、辯護人及代人ヲ使用スルノ自由ヲ有スヘシ  
又該臣民若ハ人民ハ其ノ良心ニ關シテ完全ナル自由立現行法令ニ從テ公職ノ職務ヲ行フノ權利ヲ有シ且特ニ便宜ノ場所ニ設置保存セラルル所ノ埋葬地ニ於テ同種現行法令ニ從ヒ其ノ宗教上ノ慣習ニ依リ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲモ享有スヘシ  
第十二條  
兵員宿泊ノ義務、陸軍軍ノ強迫兵役、假發或ニ軍事上ノ賦款及強募公債ニ就テハ兩國同盟ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ歐羅巴諸國及ハ亞米利加合衆國ノ臣民若ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ將來許與スルコトアルヘキ特權及免除ヲ同シク享有スヘシ  
第十三條  
本條約ハ其ノ批准書交換後直ニ實行シテ兩國同盟國ノ一方ヨリ本條約ヲ廢止スルノ意ヲ他ノ一方ニ通知セシメヨリ滿六箇月ヲ經過スルマデハ其ノ效力ヲ繼續シ此ニ至テ消滅スルモノトス  
第十四條  
本條約ハ日本文、西班牙文並ニ英文各二通ニ調印スヘシ若シ日本文、西班牙文ト相抵牾スルコトアリタル場合ニハ英文ニ依テ之ヲ決スヘシ而シテ英文ハ雙方ニ對シ效力ヲ有スルモノトス

第十五條  
本條約ハ兩國同盟國ニ於テ可成連ニ之ヲ批准シ華盛頓府ニ於テ其ノ批准書ヲ交換スヘシ  
右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ本條約書ニ記名調印スルモノナリ  
明治三十一年即西曆千八百九十八年二月三日華盛頓府ニ於テ六通ヲ作ル  
英、カイシャ、メル、印  
天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
朕明治三十一年二月三日華盛頓ニ於テ日亞兩國全權委員ノ記名調印シタル修訂通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス  
神武天皇即位紀元二千五百六十一年即西曆千九百一十一年七月十八日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ誓フルニシム  
御名 國王  
外務大臣 曾廣荒助 印  
露西亞國講和條約  
明治三十八年十月十六日  
勅令總外、大臣副署  
朕明治三十八年九月五日亞米利加合衆國「ボーツマス」ニ「ニュー・ハンプシヤ州」ニ於テ朕カ全權委員ト露西亞國全權委員ノ記名調印シタル講和條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム  
日本國皇陛下及露西亞國皇陛下ハ兩國及其ノ人民ニ平和ノ幸福ヲ回復セムコトヲ欲シ議和條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲メ日本國皇陛下帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス  
兩國同盟國ハ前記規定ニ係ル兩國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

下ハ外務大臣從三位勳一等男爵小村壽太郎閣下及亞米利加合衆國駐特命全權公使從二位勳一等高平小五郎閣下及露西亞國皇陛下ハ「ブレシアン」ト「オウ、セ、コムミヤチ、オウ、ミニスター、オウ、セ、エムバイヤ、オウ、ロシヤ」セクレタリ、オウ、ステート「セルフウキヤ」閣下及亞米利加合衆國駐特命全權公使「マスタ、オウ、セ、イムヒリアル、コールト、オウ、ロシヤ」男爵「ロイヤン、ローゼン」閣下各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協定決定セリ  
第一條  
日本國皇陛下ト露西亞國皇陛下トノ間及兩國同盟國臣民ノ間ニ將來平和及親睦アルヘシ  
第二條  
露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政權上、軍事上及經濟上ノ卓越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本帝國政府カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約ス  
韓國ニ於ケル露西亞國臣民ハ他ノ外國ノ臣民又ハ人民ト全然同様ニ待遇セラルヘク之ヲ換得スルハ最良國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ地位ニ置カルヘキモノト知ルヘシ  
兩國同盟國ハ一切阻礙ノ原因ヲ避ケムカ爲メ韓國ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ促進スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトニ同意ス  
第三條  
日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス  
一 本條約ニ附屬スル追加約款第一ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ボス地境

以外ノ滿洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコト  
二 前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領シ又ハ其ノ監視ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ擧ゲテ全然露西亞國ノ行政ニ還附スルコト  
露西亞帝國政府ハ滿洲ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的讓與ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス  
第四條  
日本國及露西亞國ハ滿洲ノ商工業ヲ發達セシムカ爲メ列國ニ共通スル一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサルコトヲ互ニ約ス  
第五條  
露西亞帝國政府ハ滿洲政府ノ承諾ヲ以テ旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ボス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス  
兩國同盟國ハ前記規定ニ係ル兩國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス  
日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財產權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第六條  
露西亞帝國政府ハ長春（寬城子）旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財產並同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且滿洲政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス  
帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス  
兩國同盟國ハ前記規定ニ係ル兩國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス  
第七條  
日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道ヲ全ク商業ノ目的ニ限リ經營シ決シテ軍略ノ目的ヲ以テ之ヲ經營セサルコトヲ約ス  
該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ボス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサルモノト知ルヘシ  
第八條  
日本帝國政府ハ露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ增進シ且之ヲ便宜ヲシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定セムカ爲メ成ルヘク連ニ別約ヲ締結スヘシ  
第九條  
露西亞帝國政府ハ陸岬岬島部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼並該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度下定ム該地域ノ正確ナル經界線ハ本條約ニ附屬スル追加約款第二ノ規定ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ  
日本國及露西亞國ハ陸岬岬島及其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ懸垂其他之ヲ懸垂スル軍事上工物ヲ築造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第十條  
日本國ニ讓與セラルル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テハ其ノ不動產ヲ賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス但シ露西亞國臣民ニ於テ讓與地域ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法律及管轄權ニ服從スルコトヲ條件トシテ完全ニ其ノ職業



屬地ニ於テ總テ歐羅巴諸國又ハ亞米利加合衆國ノ臣民、人民、商品及船舶ニ對スルト同權ノ待遇ヲ享受スヘシ

第七條 政府、官吏、公吏、一人、台社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲ニ際セラルル所ノ噸稅、船費稅、港稅、水先案内料、檢査費、雜破船救助料其ノ他之ト同種ノ諸稅、諸費ニ就テハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ智利共和國ノ船舶ハ日本國ノ各海港、河川又ハ海峽ニ於テ又日本國ノ船舶ハ智利國ノ各海港、河川又ハ海峽ニ於テ同一ノ海港、河川又ハ海峽ニ於テ歐羅巴諸國又ハ亞米利加合衆國ノ船舶ニ現ニ賦課シ又ハ將來賦課スヘキ諸稅諸費ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノモノヲ課セラルルコトナカルヘシ

第八條 兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス日本國及智利國ノ法律ヲ以テ各自ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第九條 本條約ニ於テハ日本國ノ法令ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ヲ日本國船舶ト認メ智利國ノ法令ニ從ヒ智利國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ヲ智利國船舶ト認ムヘシ

第十條 智利國若ハ其ノ領海ニ到ル日本國ノ臣民及船舶ハ智利國若ハ其ノ領海ニ在ル間ハ智利國ノ法律及裁判管轄權ニ服スヘシ又日本國若ハ其ノ領海ニ來ル智利共和國ノ人民及船舶ハ日本國若ハ其ノ領海ニ在ル間ハ同シク日本國ノ法律及日本皇帝陛下ノ裁判所ノ管轄權ニ服スヘシ但シ本條ノ規定ハ兩締盟國ノ一方ノ海港若ハ領海ニ在ル他ノ一方ノ船舶ニ對シテハ適用スルコトナカルヘシ

第十一條 兩締盟國ノ一方ノ臣民若ハ人民ハ相互ニ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ其ノ身體及財產ニ對シテ內國臣民若ハ人民ニ對シテ同種ノ權利ヲ完全ノ保護ヲ享受シ其ノ正當ノ權利ヲ執行シ及防禦セムカ爲メ自由ニ裁判所ニ到ルコトヲ得ヘク且裁判所ニ於テハ內國臣民若ハ人民ト同權ニ訴訟代理人、辯護人及代人ヲ使用スルノ自由ヲ有スヘシ

第十二條 兵員宿泊ノ義務、陸海軍ノ強迫兵役、徵發並ニ軍事上ノ賦稅及強募公債ニ就テハ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地ニ於テ歐羅巴諸國又ハ亞米利加合衆國ノ臣民若ハ人民ニ現ニ許シ又ハ將來許スルコトアルヘキ特權及免除ヲ同シク享有スヘシ

第十三條 本條約ハ其ノ批准書交換後直ニ實行シ而シテ兩締盟國ノ一方ヨリ本條約ヲ廢棄スルノ意ヲ他ノ一方ニ通知セシヨリ滿六箇月ヲ經過スルマテハ其ノ效力ヲ繼續シ此ニ至テ消滅ニ歸スルモノトス

第十四條 本條約ハ日本文、西班牙文並ニ英文各二通ニ同印スヘシ若シ日本文ト西班牙文ト相抵悖スルコトアリタル場合ニハ英文ニ依テ之ヲ決スヘシ而シテ英文ハ雙方ニ對シテ效力ヲ有スルモノトス

第十五條 本條約ハ兩締盟國ニ於テ可成速ニ之ヲ批准シ華盛頓府ニ於テ其ノ批准書ヲ交換スヘシ

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

追加條款 日本國皇帝陛下及智利共和國大統領閣下ハ明治三十年九月二十五日即西曆千八百九十七年九月二十五日華盛頓ニ於テ調印セラルル條約好通商航海條約ニ記載シタル最惠國待遇ニ關スル規定ノ範圍ヲ明瞭ニ解釋セムコトヲ希望シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣子爵青木周藏ニ智利共和國大統領閣下ハ日本帝國駐智利共和國特命全權公使、ドン、カルロス、モルラ、ウヰカリーニア二命シテ左ノ追加條款ヲ約定セシメタリ

茂村マテ引キタル一線トノ内ニ含マル 大阪ノ港界ハ武庫川口目標ウヰ、ギンント)ヨリ南西四ニ向ヒ引キタル一線ト大和川口ヨリ引キタル一線ト武庫川口目標(ウヰ、ギンント)ヨリ六海哩大和川口ヨリ五海哩ノ所ニ於テ相接スル其ニ線内ニ含マル

兩締盟國ノ其ノ一方ヨリ他國ノ臣民若ハ人民又ハ船舶若ハ生産物ニ對シテ既ニ許シ又ハ將來許スルヘキ通商若ハ航海ノ事項ニ關スル一切ノ殊遇、特權若ハ免除ハ同一ノ方法及條件ヲ以テ之ヲ他ノ一方ノ臣民若ハ人民又ハ船舶若ハ生産物ニモ許シ又ハキコトヲ約定ス但シ下ニ記載シタル保留ニ準據スヘキモノトス故ニ日本國ノ臣民、船舶及生産物ハ智利國ニ於テ又智利國ノ人民、船舶及生産物ハ日本國ニ於テ又日本國ノ人民、船舶及生産物ハ若ハ人民又ハ船舶若ハ生産物ニ許シ又ハ將來許スルヘキ通商若ハ航海ノ事項ニ關スル一切ノ殊遇、特權若ハ免除並智利國力亞米利加洲中拉丁種族ノ諸共和國ニ對シテ既ニ許シ又ハ將來許スルヘキ同種ノ殊遇、特權若ハ免除ハ前記規定ノ限ニ在ラス

第三卷 開港 開港港則 第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

茂村マテ引キタル一線トノ内ニ含マル 大阪ノ港界ハ武庫川口目標ウヰ、ギンント)ヨリ南西四ニ向ヒ引キタル一線ト大和川口ヨリ引キタル一線ト武庫川口目標(ウヰ、ギンント)ヨリ六海哩大和川口ヨリ五海哩ノ所ニ於テ相接スル其ニ線内ニ含マル



唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ正東及正西ニ引キタル二線以内  
住ノ江ノ港界ハ船津川口ノ南岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタル一線以内  
口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白岡崎ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トシタル面積内  
三角ノ港界ハ瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島ヨリ正北ニ引キタル一線ト同島東端ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トシタル面積内  
千束島六四郎鼻ヲ夫ヨリ大矢野島塔ヶ崎ヲ經テ引キタル四線以内  
嚴原ノ港界ハ成崎ヨリ耶良崎(一名嚴原通島)ニ引キタル一線以内  
佐須奈ノ港界ハ立揚崎ヨリトコク崎ニ引キタル一線以内  
鹿見ノ港界ハ長崎島ヨリ塔ヶ崎ニ引キタル一線以内  
那覇ノ港界ハ先原崎ヨリ千ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ千ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線以内  
濱田ノ港界ハ黒崎ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端(千瀬鼻)ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内  
境ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半径ヲ有スル圓ノ一弧内及外ノ江ノ四端ヨリ正北ニ引キタル一線以東  
宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以内  
敦賀ノ港界ハ赤崎ヨリ姪子崎ニ引キタル一線以内  
七尾市ノ港界ハ能登島松ヶ崎ヨリ南東ニ引キタル一線以西及辰風崎以東

伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半径ヲ有スル圓ノ一弧内  
青森ノ港界ハ石山ノ鼻ヨリ正西ニ引キタル一線以内  
小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリカサシ岬ニ引キタル一線以内  
釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東  
室蘭ノ港界ハエンルム岬ヨリ大黒島ヲ經テホテ引キタル一線以内  
第二條 各船船ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得  
右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船ノ著陸ノ港長ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下ニヘカラス

著陸ノ日曜日及大祭日ヲ除外ノ外著陸後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著陸後差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス  
第三條 各船長ハ其著陸ノ際シ自由交通ノ許可ヲ受ケルマテハ其船舶他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ  
第四條 港長ハ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サルトモ合テ除外ノ外特許ヲクシテ其泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得  
第五條 港長ハ其職務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙圖形ノ如キ旗ヲ掲クヘシ

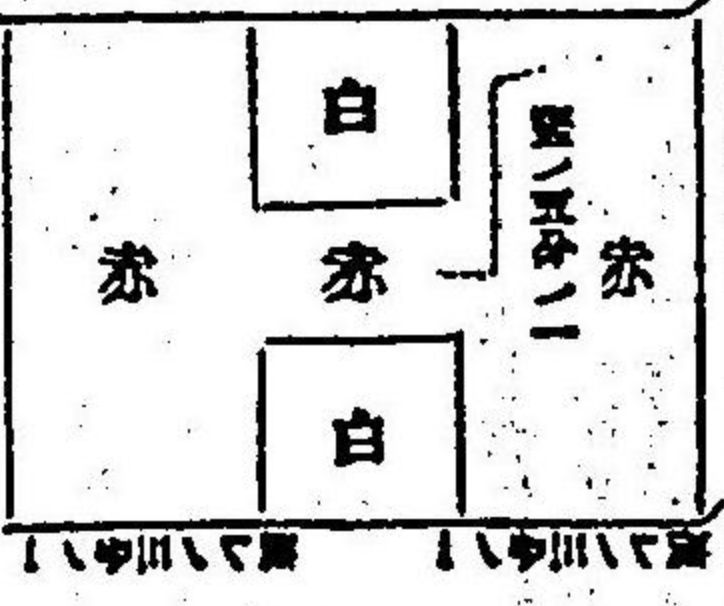
港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動要領ノ適否及泊所ニ關スル指揮力果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ検査スルコトヲ得  
第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障礙スヘカラス  
「アラ、アラ、アラ」ヲ聲ケ出シタル船舶ニシテ其「アラ、アラ、アラ」カ航海ノ自由ヲ障礙スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ  
第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出トノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ  
第八條 暴風雨ノ來リムトスルトキ或ハ警報信號ヲ掲クタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ豫備錨ヲ發シシムヘシ  
第九條 常用ニ超過シ極難物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没トノ間ニハBノ信號日没ト日出トノ間ニハ紅燈ヲ前橋ノ頂上ニ掲クヘシ  
各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス  
港長ハ港界内ニ於テ前記ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得  
前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス  
第十條 休業中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」合庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ  
第十一條 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船舶ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト

日没ノ間ニハNMノ信號ヲ掲ク日没ト日出トノ間ニハ新エス紅燈ヲ上下スヘシ  
警察官ノ救護ヲ要スルトキハ日出ト日没トノ間ニハGノ信號ヲ掲ク日没ト日出トノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ  
前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病者クハ傳染病(霍亂、赤痢、傷寒、鼠疫)アル地ト布告シタル地ヨリ來客シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日没トノ間ニハ黃旗ヲ日没ト日出トノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連テ掲ク頂上ニ掲クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ  
衛生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄リタルトキハ適當ノ預防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該衛生官吏ニ通知スヘシ  
右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受ケルマテ該衛生官吏ノ臨檢ヲ受ケルヘシ且ツ該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシムヘシ一切他ノ船舶ト交通スルコトヲ得ス  
前項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス  
右船舶ハ港長ヨリ其命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ  
牛羊等傳染病アル地ヨリ來客シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

第十三條 港界内ニ於テ死體、荷足、屍體、廢棄物、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防ク爲メ必要ノ預防ヲ爲スヘシ  
何船舶ニテモ港ニ寄アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシムルトキハ港長ヨリ其命令ニ接セテ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得  
第十四條 船舶出港セントスルトキハ其旨「港務局」ニ届出テ且ツ出帆旗ヲ掲クヘシ  
一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著陸及出帆ニ對シ單ニ一同ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レトス  
第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ地ノ雜物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得  
第十六條 「港務局」ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ擊船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ  
第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鐘、綱其他ノ器具ヲ繫クヘカラス  
船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ遺棄物ニ乘掛ク又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ  
第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上

二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其實チ良フモノトス  
第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ満足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其船舶ノ出港ヲ許サス  
第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何ナルヲ問ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス  
第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ  
第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル  
第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ逓信大臣ノ告示ニ從フ  
本則實施ニ關スル細則ハ逓信大臣ノ告示ニ從フ  
(別紙) 第五條ノ旗章圖形



明治三十一年九月八日  
選信省告示第百三十一號  
明治三十一年勅令第百三十九號開港則ハ來十月十日ヨリ橫濱港ニ同十一月一日ヨリ神戸港及長崎港ニ之ヲ實施ス

明治三十三年十一月十日  
選信省告示第百四十九號  
本年十二月一日ヨリ明治三十一年勅令第百三十九號開港則ヲ門司港ニ實施ス

●開港則施行細則

明治三十一年九月二日  
選信省令第十六號  
開港則施行細則左ノ通相定メ開港則實施ノ日ヨリ施行ス

第一條 開港則施行細則  
第一條 (港務局) 官吏船舶ニ檢査シタルトキハ檢査ニ關スル許可證ヲ查閱スヘシ  
第二條 港長ノ指示シタル泊船所ヲ移轉セントスルトキハ船長ハ願書ヲ(港務局)ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ  
第三條 船舶ノ著陸屈ハ第二號書式ニ依リ(港務局)ニ差出スヘシ  
第四條 開港則第九條ニ於テ爆發爲下稱スルハ「(イ)ライム、(ロ)マグネシウム、(ハ)燐酸、(ニ)ダイナミト、(ヘ)火藥、(ロ)火管、(セ)リグナイト、(ト)ナイト、(チ)ロクリン、(リ)火藥、(ニ)火藥、(ヘ)留管ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ生石油(生油)、(ロ)煤油、(ハ)石油、(ニ)ナフタ、(ヘ)的列並底油、(ロ)依的兒、(リ)偏蘇爾、(ニ)石油、(ヘ)アセトン、(ト)...

酒精及硫化炭素ノ類其他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ  
第五條 船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分等火藥類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分等管百五十箇及信號用ノ榴彈、火筒、火箭、救命器ヲ除クノ外爆發貨ノ物料ハ總テ之ヲ常用外ト行做ス  
第六條 信號用ノ外港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發セントスルトキハ願書ヲ(港務局)ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ  
第七條 港界内ニ於テ船舶ヲ休緊シタハ修補セントスルトキハ願書ヲ(港務局)ニ差出ツヘシ  
第八條 開港則第十二條第六項ノ船舶及碇泊中獸類傳染病ノ發生シタル船舶ハ速ニ其旨ヲ(港務局)ニ届出ツヘシ  
第九條 動物ノ死體灰燼塵芥等ヲ取棄セントスル船舶ハ(港務局)ニ於テ承認シタル處所ヲ使用スヘシ  
第十條 船舶ヲ使用セントスル船舶ハ船内見易キ處ニ「(イ)信號若シテ目標トナスヘシ  
第十一條 船舶浮標使用ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ(港務局)ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ(港務局)ノ告知ヲ受ケタルトキハ運轉ナク成規ノ使用料ヲ納入スヘシ  
第十二條 船舶浮標使用ノ規則ニ之ヲ定ム  
第十三條 船舶浮標使用ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ(港務局)ノ指定シタル船舶浮標ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得  
港長ハ必要ニ依リ使用スヘキ浮標ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 船舶出港セントスルトキハ第四號書式ノ出港届ヲ(港務局)ニ差出スヘシ  
第十三條 一定ノ日時ニ發着スル汽船ニシテ其著陸及出港ニ付二回ノ届出ヲ爲ス者ハ第六號書式ニ依ルヘシ  
第十四條 出港シタル船舶運轉其他事故ノ爲メ出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其事由ヲ記載シタル届書ヲ(港務局)ニ差出シ著陸届ニ代フルコトヲ得  
第十五條 開港則第二十條ニ規定スル擔保物ハ帝國ノ通貨及帝國政府ノ公債証券ニ限ル  
第十六條 本則ノ規定ハ第二條第八條及第九條ヲ除クノ外軍艦ニハ之ヲ適用セス  
第十七條 第一條ノ規定ハ沿海通航船ニハ之ヲ適用セス  
第十八條 船籍證書ヲ受有スルニ及ハサル船舶及一定ノ港津間ニ往復スル沿海通航船ハ船主ヨリ(港務局)ニ届出テ允許ヲ受ケルニ於テハ第三條及第十二條第一項ノ手續ヲ省略スルコトヲ得  
第十九條 警報信號、正午標準時、港界内ノ航路、泊船所碇泊所ノ區域、船舶ノ運動及繫船ノ方法ハ各港ニ付キ港長之ヲ定ム  
第一號書式 交通證書  
(船名)ハ健康ト認ムルヲ以テ船長某ハ此交通證書ヲ付與ス  
年 月 日 (何(港務局)長) 署 署  
一船ノ種類

●開港及開港ニ於ケル輸出入貨物ノ指定

明治三十二年七月十三日  
勅令第三百四十二號大 大臣閣議  
第三號書式 (創設)  
第四號書式  
一 船名  
一 船主  
一 船籍港名  
一 船種  
一 船噸數  
一 發航地名(及發航年月日)  
一 到達地名  
右 年 月 日 時 當港入船 年 月 日 時 出船可致候間此段及御届候也  
年 月 日 船長 某

開港及開港ニ於ケル輸出入貨物ノ指定  
明治三十二年七月十三日  
勅令第三百四十二號大 大臣閣議  
第三號書式 (創設)  
第四號書式  
一 船名  
一 船主  
一 船籍港名  
一 船種  
一 船噸數  
一 發航地名(及發航年月日)  
一 到達地名  
右 年 月 日 時 當港入船 年 月 日 時 出船可致候間此段及御届候也  
年 月 日 船長 某

陸奥國青森 後志國小樽 釧路國釧路 函館國函館  
第二條 若松港ニ於テ左ノ物品ニ限リ輸入ヲ許ス  
生卵  
米、穀、大麥、小麥、燕麥、玉蜀黍及豆類  
鐵礦  
肥料  
第二條ノ二 住ノ江港ニ於テハ貨物ノ輸出ニ限リ爲スコトヲ得  
第二條ノ三 青森港及室蘭港ニ於テハ左ノ物品ニ限リ輸入ヲ爲スコトヲ得  
穀物及種子  
飲食物  
砂糖及糖菓類  
毛皮  
獸皮  
油、脂及蠟  
テーパー、アングル形其ノ他類似ノモノ  
軌條及軌條用ノ材料  
鐵製軋軋旋釘、ワッシャー、ベット及ドック  
金屬製建築材及橋梁材  
工匠具、農具及同部分品  
鐵道機關車、機關車用炭水車及同部分品  
鐵道客車、貨車及同部分品  
無稅品

第三條 第一條ノ各港ニ於テ滿二年毎ノ輸出入貨物ノ價格五萬圓ニ達セザルトキハ之ヲ閉鎖ス...

帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ニ關スル制

明治三十九年八月三十一日 勅令第二百三十六號大 大臣副署 朕帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム...

條約諸外國人臺灣ニ通商航海方

明治二十九年二月二十二日 外務省告示第一號 通商航海ノ條約アル歐米各國臣民及人民ヲシテ臺灣ニ於テ淡水基隆安平蘇澳及打狗ニ居住シ商樂ヲ營ミ且ツ右等諸國ノ船舶ヲシテ淡水基隆安平及打狗ノ諸港ヘ寄港シ且該等船舶出入スルコトヲ得セシメ又臺灣ノ特殊ナル情形アリト雖モ現行通商航海條約規則及其他ノ諸取極ハ出來得ヘキ...

限リ臺灣ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル歐米各諸國ノ臣民人民及船舶ニモ之ヲ適用スヘシ

臺灣關稅規則ニ依ル開港場所指定

明治三十二年八月三日 臺灣總督府令第八十七號

明治三十二年律令第二十號第一條ニ依リ從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所左ノ通指定ス但當分ノ内支那形船舶ニ限リ出入スルコトヲ得

- 臺北縣 管下 基隆港 新竹港 臺中縣 管下 鹿港 臺南縣 管下 東石港 澎湖廳 管下 澎湖港

第四章 渡航及在留

外國旅券規則

明治三十三年六月四日 外務省令第二號

第一條 外國ニ旅行スル者ニ付スル旅券ハ外務大臣之ヲ發行シ外國ニ於テハ公使及ヒ領事官...

附則

第十七條 本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス...

韓國人外國旅券規則

明治三十九年九月八日 統監府令第三十四號

第一條 外國ニ旅行スル韓國官吏ニ對スル旅券ハ統監又ハ理事官之ヲ發給ス...

ル前條第一號乃至第五號ノ事項ヲ併セ開申スヘシ...

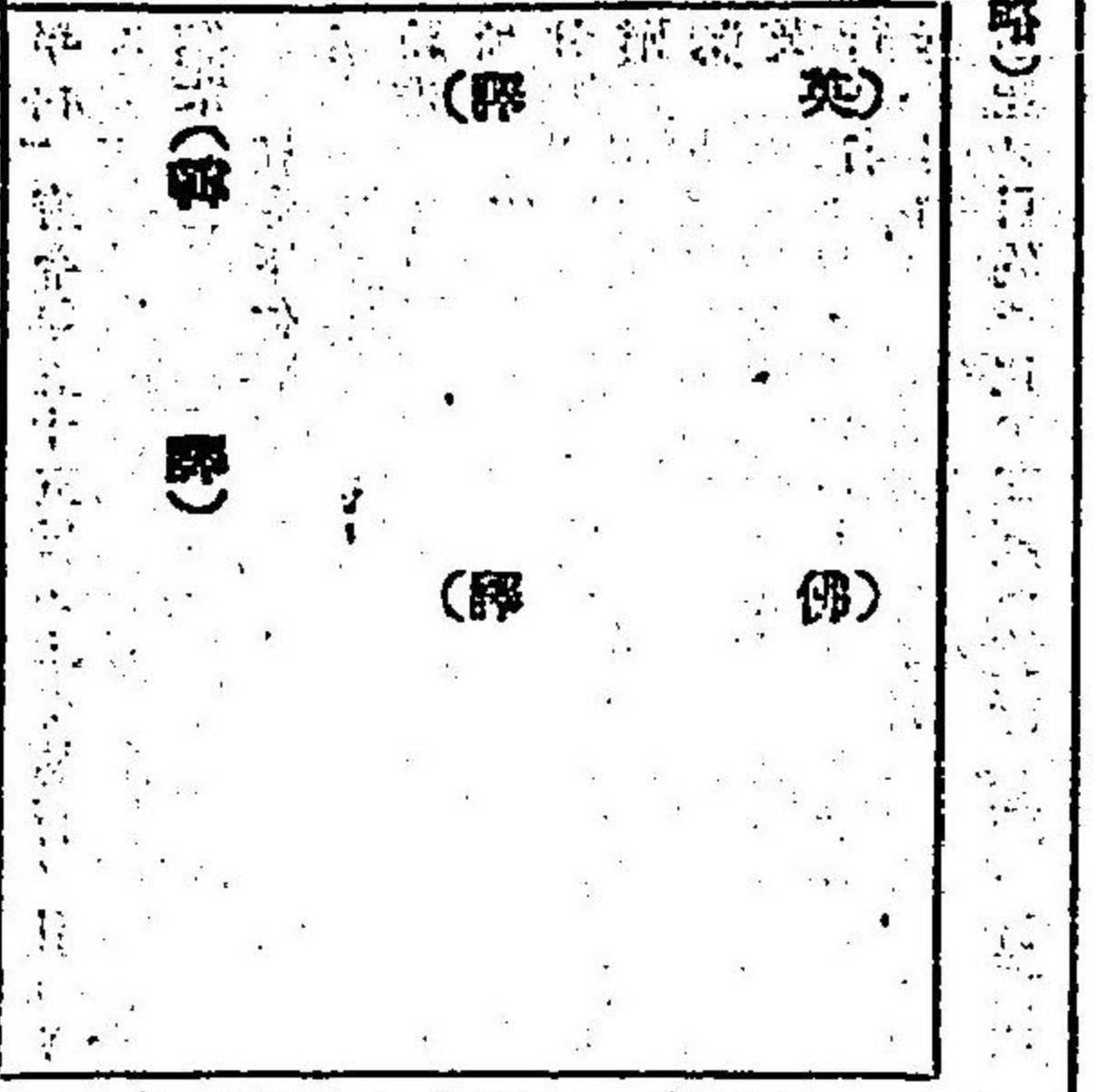
第二條 依リ旅券ノ下付ヲ出願シタル者其ノ領收ノ後二箇月以内ニ出發セザルトキハ旅券ヲ返納スヘシ...

第三條 韓國臣民ニシテ旅券ノ發給ヲ請フ者ハ左ノ事項ヲ記載シ住所ノ韓國地方官ノ證明若ハ身元保證人ノ連署ヲ以テ理事官ニ出願スヘシ...

長官ノ證明ヲ得テ統監又ハ理事官ニ出願スヘシ... 第五條 戶主ト同行スル家族、夫ト同行スル妻又...

第十二條 旅行十箇年ニ及ヒ滿國又ハ歸著セザル者ハ旅券領收ノ日ヨリ十箇年以内ニ旅券ヲ査証...

Form for travel documents with fields for Issued By (日 統監), Recipient (氏名), and Issuance Date (年月日).



外國旅行券規則... 明治三十三年十月六日... 第一條 臺灣ヨリ直ニ外國ニ渡航セントスル帝國...

八 旅行地名... 九 旅行ノ目的... 本島人ハ旅券下付出願ノ際其願書ニ本人ノ寫眞...

ナ受クルコトヲ得ス但第四條ニ該當スル者ハ清國若ハ韓國ニ旅行セントスル場合ヲ除ク外此限...

又ハ之ヲ使用セシメタル者若ハ第一條第二項ノ  
寫眞ヲ取換ヘ使用シタル者ハ其旅券ヲ取上ケテ  
十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以内ノ重禁錮ニ  
處ス  
此規則ニ依リ返納スヘキ旅券ヲ返納セスシテ使  
用シタル者亦同シ  
第十三條ノ二 第八條第十條ニ依リ旅券ノ返納ヲ  
爲サス又ハ第十一條ノ届出ヲ爲ササル者ハ十圓  
以下ノ罰金ニ處ス  
第十四條 明治三十三年外務省令第二號外國旅  
券規則第十五條又ハ第十六條ニ依リ刑ノ執行ヲ  
受ケタル者ニハ本令第十二條又ハ第十三條ヲ適  
用セス但シ寫眞ヲ取換ヘ使用シタルモノハ此ノ  
限リニアラス

第十五條 本令ハ明治三十三年十一月一日ヨリ施  
行ス  
明治三十年一月令第二號外國旅行券規則及明治  
三十年一月令第五十五號ハ本令施行ノ日ヨリ  
廢止ス  
(別記書式)  
旅券下付願  
一 氏名  
一 本籍地  
一 居所  
一 身分  
一 旅費  
一 旅行地名  
一 旅行ノ目的  
右者前記ノ目的ヲ以テ其國ヘ旅行(或ハ數次在

留) 致度候ニ付旅券御下付相成度此段奉願候也  
明治 年 月 日 右 氏 名 印  
【縣知事(局長)宛】  
●本島人亞米利加合衆國及其ノ  
領土内渡航證明規則  
明治三十五年十一月二十一日  
臺灣總督府令第八十號  
本島人亞米利加合衆國及其ノ領土内渡航證明規則  
左ノ通相定ム  
本島人亞米利加合衆國及其ノ領土内渡航證明  
規則  
第一條 本島人ノ官吏教師學生商人漫遊者ニシテ  
亞米利加合衆國及其ノ領土内ニ旅行セントスル  
者ハ親ヲ所轄廳ニ出頭シ外國旅行券下付願書ノ  
外申書式ニ依リ渡航證明書下付願書ヲ提出ス  
官命ニ依リ旅行スル者ハ所屬官廳ヲ經由シテ旅  
行券ノ外證明書下付願書ヲ提出スルニ請求スヘ  
シ  
第二條 戶主ト同行スル家族、夫ト同行スル妻、  
父若ハ母ト同行スル子ハ戶主、夫、父若ハ母ノ  
名ヲ以テ渡航證明書下付願書ニ家族、妻又ハ子  
ノ名、年齢、身分ヲ列記スルコトヲ得  
第三條 渡航證明書下付願書ハ本人戶主ナルトキ  
ハ其ノ親族、戶主ニアラサルトキハ其ノ戶主ト  
連署シ之ヲ提出スヘシ  
親族ノ者連署ヲ爲ストキ其ノ本籍地及住所若ハ  
居所ヲ記入スヘシ  
第四條 行商人及労働者ハ渡航證明書下付願書  
ニ本島ニ渡航スル者ハ該島ノ津海島ニ在留シ得  
該島ノ稅關長ヨリ交付シタル證明書ヲ提出シ其

付再ヒ御下付相成度戶主(又ハ親族)連署ノ上此  
段奉願候也  
明治 年 月 日 氏 名 印  
本籍地  
住所若ハ居所  
連署人 氏 名 印  
局長宛

ノ歸航期限内ニ渡航スル者ナルコトヲ證明シタ  
ル後其ノ證明書ニ地方長官ノ査照ヲ受ケヘシ  
第五條 渡航證明書ハ一人ニ付一枚ヲ下付ス但シ  
父若ハ母ト同行スル未成年者二人以上ニ下付ス  
ル證明書ハ一枚ニ二人以上ノ名ヲ列記スルコト  
ヲ得  
三歲未満ノ小兒ハ別ニ證明書ヲ要セス父若ハ母  
ノ渡航證明書ニ附記スヘシ  
第六條 渡航證明書下付願書ニ出願シタル者渡航證明  
書ヲ領收スルトキ手数料トシテ一枚ニ付金一圓  
ヲ納ムヘシ第四條ニ依リ地方長官ノ査照ヲ受ケ  
ル者其ノ査照ヲ受ケルトキ亦同シ  
第七條 渡航證明書ヲ領收シタル者ハ其ノ證明書  
ニ署名シ親ヲ臺灣ニ在ル亞米利加合衆國領事館  
ニ出頭シ上渡航證明書ニ外國旅行券ヲ添ヘ同國  
政府ノ定ムル手数料ヲ納メテ該領事館ニ査照  
ヲ受ケヘシ但シ臺灣ノ地ニ在ル者親ヲ該領事館  
ニ出頭シ難キトキハ渡航證明書下付願書ニ官  
廳ヲ經由シ査照手数料ヲ納付シテ領事官ノ査照  
ヲ請求スルコトヲ得  
第八條 渡航證明書ノ紛失遺失又ハ盜竊及發見ノ  
場合ニハ速ニ其ノ證明書ノ下付ヲ受ケタル官廳  
ニ届出ツヘシ  
第九條 渡航證明書遺失紛失若ハ盜竊ニ罹リタル  
場合ニ於テハ乙號書式ニ依リ其ノ證明書ノ下付  
ヲ受ケタル官廳ニ再下付ヲ願出ツルコトヲ得  
再下付ヲ願出ツルトキハ第三條第六條第七條ノ  
規定ニ從フヘシ  
第十條 渡航證明書ノ返納ハ外國旅行券規則第八  
條ノ規定ニ準シ旅券ト共ニ返納スヘシ  
第十一條 證明書ノ所爲ヲ以テ渡航證明書ノ下付ヲ  
受ケタル者其ノ情ヲ知テ之ヲ幫助シタル者他人

ノ氏名ヲ記載セル證明書ヲ使用シ又ハ之ヲ使用  
セシメタル者及返納スヘキ證明書ヲ返納セスシ  
テ使用シタル者ノ處罰ハ外國旅行券規則第十二  
條第十三條ノ規定ニ準用ス  
附則  
第十二條 本令ハ明治三十五年十二月一日ヨリ施  
行ス  
(甲號書式)  
渡航證明書下付願  
本籍地  
住所  
身分  
職業  
職 業 氏 名  
生年月日  
右ハ 目的ヲ以テ亞米利加合衆國(又ハ  
其領土ノ地名)ヘ渡航致度候ニ付證明書御下付  
相成度戶主(又ハ親族)連署ノ上此段奉願候也  
明治 年 月 日 氏 名 印  
本籍地  
住所若ハ居所  
連署人 氏 名 印  
局長宛

●移民保護法  
明治三十五年四月八日  
法律第七十號總務省令第四十九號  
臺灣總督府告示第四百十九號  
亞米利加合衆國領事館ニ於テ査照ノ手数料ノ金ニ  
關シテ徵收スル旨本島駐在領事官ヨリ告知  
アリタリ  
第一章 移民  
第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞動ニ從事ス  
ルノ目的ヲ以テ清國兩國外ノ外國ニ渡航スル  
者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地  
ニ渡航スル者ヲ謂フ  
前項勞動ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受ケルニ非ザレハ  
外國ニ渡航スルコトヲ得ス  
渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出  
發セザルトキハ效力ヲ失フモノトス  
第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情況ニ因リ移民

取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル二人  
以上ノ保證人ヲ定ムルコトヲ得  
保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之  
ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移  
民ヲ救助シ若ハ歸國セシムルトキハ其ノ費用  
ヲ辨償スヘシ  
第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲  
又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差  
止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スルコトヲ得  
渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入  
セシム  
第二章 移民取扱人  
第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ  
名義ヲ以テスルニ拘ラズ移民ヲ募集シ又ハ其ノ  
渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ  
第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ  
許可ヲ受ケヘシ  
移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以  
内ニ營業ヲ開始セザルトキハ效力ヲ失フモノト  
ス  
第七條ノ一 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナシ社員若  
ハ株主トスル商會社ニシテ帝國ニ於テ主たる  
營業所ヲ有スルモノニ非ザレハ移民取扱人タル  
コトヲ得ス  
前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ  
之ヲ定ム  
第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル  
移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ滿十年間第三條第二  
項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ  
第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行為法律命令ニ違  
反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルト

(乙號書式)  
渡航證明書再下付願  
本籍地  
住所  
身分  
身 分 (戶主家族ノ利若ハ親族ナルトキハ戶主  
ノ氏名及年齢ヲ記シ親族ナルトキハ親族ノ氏名)  
氏 名  
生年月日  
右ハ 目的ヲ以テ へノ渡航證明書  
第 號ヲ明治 年 月 日付ヲ以テ御下付相  
成候度 月 日差離ニ罹リ(遺失又ハ紛失)候ニ

第十四輯 外交 第四章 渡航及在留

二二三

キ又ハ移民取扱人保証金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スルコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖モ渡航シタル移民ニ對シテ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得

第十條 移民取扱人代理人ヲ定ム其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメタル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得

第十三條 移民取扱人ハ労働契約ニ因リ渡航スル移民ノ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトキハ移民トシテ前項契約ヲ爲シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 移民取扱人ハ手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルナラズ移民ノ金貨又ハ物品ヲ受クルコトヲ得

第十五條 移民取扱人ハ移民ヲ募集スルトキハ出發シタル日ヲ限定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人ハ其ノ理由ヲナクシテ決定シタル日內ニ移民ヲ出發セシメタルトキハ其ノ出發延期ヲ爲シ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保証金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得

保証金額ハ一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保証金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下ニ下ズコトヲ得

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シテ契約ヲ履行セズ又ハ第七條ノ二ニ規定シタル保証人ノ義務ヲ履行セズト認メタルトキハ保証金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ノ取消又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保証金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保証金額置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人ハ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外人ト雖モ保証金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケ又ハ渡航地ヲ許シテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止命令ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケシテ移民取扱人ノ行為ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケザル

代理人ヲシテ其ノ行為ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行為ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以下ノ懲罰ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲クル行為ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第五節 附則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際則チ許可ヲ受クルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ノ繼續セザルトキト雖モ其ノ既ニ納付シタル保証金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第四十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●移民保護法施行細則

明治二十九年五月二十七日  
外務省令第三號內務、拓、大原連署  
第三〇年三月三十一日、三一年三月三十一日、三二年三月三十一日

移民保護法施行細則

第一條 移民保護法第一條ニ掲グル労働ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 耕作、栽培、牧畜、漁業、製糖、製茶、製紙、製油、製鹽、製炭、製氷、製糖、製茶、製紙、製油、製鹽、製炭、製氷

二 礦業、製造、土木、運搬、建築等ニ關スル労働

三 二十歳以上三十五歳以下ノ男女ニ限リ労働

第二條 渡航ノ許可ヲ受ケント欲スル移民ハ渡航地、渡航ノ目的及渡航年限ヲ詳記シ原籍地ノ地方長官官廳ニ提出スルヘシ但シ移民業主ノ申請ニ依リ外務大臣特ニ認可シタル場合ニ於テハ之ニ屈ハルヘキ移民ハ其ノ所在地ノ地方長官官廳ニ提出スルコトヲ得

第三條 移民取扱人ニ依ル者ハ渡航地ノ移民取扱人ナシテ連署セシメ移民取扱人ニ依リシテ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ハ保證人ヲシテ之ニ連署セシムヘシ但シ移民保護法第十三條第一項ニ該當スル移民ハ同時ニ移民取扱人トシテ連署スルヲ提示ナラズ

第四條 第一項但書ニ依リ移民所在地ノ地方長官官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ連署ナク其ノ旨ヲ移民原籍地ノ地方長官官廳ニ通知スヘシ

第五條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定ムシムヘキ場合ハ外務大臣之ヲ告示ス

第六條 移民保護法第三條ニ掲グル保證人ハ其ノ原籍地ノ地方長官官廳ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第七條 移民取扱人タラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ主たる營業所ヲ置ク地ノ地方長官官廳ニ提出スルコトヲ得但シ出願スベシ但シ合名會社ニ於テハ各社員ヨリ、合資會社ニ於テハ業務擔當社員ヨリ、株式會社ニ於テハ發起人ヨリ出願スヘシ

一 營業所

二 營業資本金額

三 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

四 移民ヲ渡航セシムヘキ土地

五 移民ノ種類

六 取扱フヘキ移民ノ豫定人員

七 移民ノ渡航前後ニ於ケル周旋ノ方法

八 出願者ノ履歷

九 合名會社ニ於テハ各社員ノ財産、合資會社ニ於テハ各社員ノ出資額及無責任社員ノ財産、株式會社ニ於テハ株式ノ總數及一株ノ金額並びに發起人各自ノ引受クル株式數及財産、會社ニアラサルモノニ於テハ營業主ノ財産

第十條 移民取扱人ノ營業ヲ相續シ若ハ讓受ケントスル者モ亦本條ノ規定ニ依ルヘシ

第十一條 移民取扱人營業開始ノ後前條ニ掲グル第六條第五項第六項ノ事項ヲ變更シ又ハ主たる營業所ヲ他ノ府縣ニ移轉セントスルトキハ前條ノ手續ニ準シ許可ヲ受クヘシ

第十二條 移民取扱人ハ左ノ事項ヲ十日以内ニ主たる營業所ヲ置ク地ノ地方長官官廳ニ經由シテ外務大臣ニ届出ツヘシ

一 開業シタルトキハ其ノ年月日

二 株式會社設立ノ後取締役ノ氏名住所

三 商會社ニシテ無責任社員若ハ取締役責任社員ニ關シテハ其ノ氏名住所但シ無責任社員ニ關シテハ其ノ履歷及財産調査ヲ添フヘシ

四 同一府縣內ニ於ケル主たる營業所ノ移轉

二 手數料  
 三 渡航及歸航費用ノ支辨方  
 四 渡航地ニ於ケル周旋ノ方法  
 五 疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ救助又ハ歸國ノ手続

書面契約認可ノ後移民取扱人ト移民トノ間ニ解約アリタルトキハ移民原籍地ノ地方長官 第二屆出ツヘシ

第二條 第一項但書ニ依リ移民所在地ノ地方長官ニ渡航許可ヲ出願スル場合ニ於テハ本條第一項及第三項ノ手續ヘ之ヲ其ノ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官本條第一項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ契約書寫又ハ手數料認可願書寫ヲ添ヘ認可ノ年月日、移民ノ氏名、年齢、族籍、職業並ニ契約又ハ願書ノ番號ヲ外務大臣ニ報告シ又移民取扱人ノ主ナル營業所ヲ記シテ地方長官ニ提出スヘシ

第十二條 移民取扱人外國ニ於ケル移民雇主ノ注文ニヨリ移民ヲ募集セントスルトキハ雇主ノ注文書ニ移民募集地方別限定額ヲ添ヘ主ナル營業所ヲ記シテ地方長官ニ提出スヘシ

第十三條 地方長官ハ移民募集地方別限定額ヲ管轄ノ地方長官ニ通知スヘシ

第十四條 當該官廳ヨリ移民保護法第十三條ニ掲グル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民及移民取扱人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 移民取扱人移民保護法第十五條ニ依リ限定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知スルトキハ書面ヲ以テスルトコトヲ要ス

第十六條 移民保護法第十六條ニ掲グル保證金ハ

主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ニ納付スヘシ  
 前項保證金額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム  
 第十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國貨證券又ハ地方債證券ヲ以テ之ニ代用スルトコトヲ得

前項國貨證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ官廳ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ハ該管ノ移民取扱人ノ保證金額ヲ追納セシムルヲ得

第十八條 移民取扱人代理人ヲ定ムル許可ヲ受ケント欲スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ニ提出スヘシ

一 代理ニ關スル條件  
 二 代理人ノ履歷  
 三 代理人ノ財産

第十九條 代理人ニシテ其ノ業務ヲ行フトキハ代理人タルノ許可證ヲ攜帶スベシ  
 第二十條 移民取扱人ニ定ムル許可證代理人トシテ在留スル者ヲ代用スルニハ其ノ許可證代理人ニ到達スル以前ニ業務ヲ行ハシムルニハ必要アルトキハ移民取扱人ノ費用ヲ以テ主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ニ提出シ其ノ在留スヘキ地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人移民保護法第十三條ニ掲グル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民及移民取扱人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十二條 移民取扱人移民保護法第十三條ニ掲グル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民及移民取扱人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 移民ノ渡航地ニ在留スル義務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地雇主ノ氏名ヲ明記シ當該官廳ヨリ命令アルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第二十四條 移民ノ渡航地ニ在留スル義務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ他國ニ轉住スヘキ移民アルトキハ其ノ在留地及轉住地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十五條 移民取扱人ハ左ノ書式ニ依リ契約書ニ署名シ其ノ署名日期ハ一月二十五日マテニ主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ニ提出スヘシ

渡航許可官廳及氏名	渡航許可年月日	族籍	渡航目的地	渡航年月日	渡航期限
移民取扱人					
代理人					

第二十一條 移民取扱人移民ノ身上ニ負擔シ生セシ報告ニ接シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ニ報告シ其ノ旨ニ依リ其ノ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ明記シタル願書ヲ其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ送付スヘシ但シ移民保護法第十三條第一項ニ該當スル移民ニ係ルトキハ契約書寫ヲ添フヘシ

第二十三條 前項契約書寫ハ同一條件ニ係ルモノハ其ノ寫一通ヲ以テ足レトス

第二十四條 移民ノ渡航地ニ在留スル義務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地雇主ノ氏名ヲ明記シ當該官廳ヨリ命令アルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第二十五條 移民ノ渡航地ニ在留スル義務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ他國ニ轉住スヘキ移民アルトキハ其ノ在留地及轉住地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十六條 移民取扱人ハ左ノ書式ニ依リ契約書ニ署名シ其ノ署名日期ハ一月二十五日マテニ主ナル營業所ヲ置ケル地方長官ニ提出スヘシ

外國者名簿		死亡者名簿	
渡航許可官廳及氏名	渡航許可年月日	姓名	死亡年月日

明治三十九年七月十三日 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號

● 移民保護法  
 明治三十九年七月十三日 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號

● 移民保護法  
 明治三十九年七月十三日 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號

出向禁止中ノ日數ハ前條第二項ノ期間ニ算入ス

第四條 移民取扱人ハラントスル者ハ農商工部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

移民取扱人代理人ハ該管ノ地方長官ニ提出スヘシ

移民取扱人ハ該管ノ地方長官ニ提出スヘシ

第一項ノ許可ハ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 移民取扱人ハ農商工部大臣ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレバ營業ヲ開始スルトコトヲ得ス

保證金ハ一萬圓以上トシ農商工部大臣之ヲ定ム

農商工部大臣ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルトコトヲ得但シ前項ノ金額以下ニ減スルトコトヲ得ス

第六條 移民取扱人ハ出向ノ周旋ヲ爲シタル移民ノ救助シ又ハ困難ニシタル場合ニ於テ之ヲ救済スル義務ヲ負フ

前項ノ義務ヲ負擔スル期間ハ移民ノ出向シタル月ヨリ十箇年トス

第七條 移民取扱人ハ代理人又ハ代表者ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ出向セシムルトコトヲ得ス

第八條 移民取扱人ハ手數料ノ外移民ヨリ何等ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ手數料ハ農商工部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 移民取扱人ハ労働契約ニ依リ出向スル移民ヲ募集シ又ハ其ノ出向ノ周旋ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲スヘシ其ノ契約條件ハ農商工部大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十條 農商工部大臣ハ左ノ場合ニ於テ移民取扱

● 移民保護法  
 明治三十九年七月十三日 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號  
 就監府告示第六十八號

人ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一 移民取扱人又ハ代理人若ハ代表者ノ行為法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シタルトキ

二 移民取扱人又ハ代理人若ハ代表者カ指定シタル期限内ニ罰金ヲ納付セザルトキ

三 第五條第一項ノ規定ニ違背シタルトキ又ハ第五條第三項ノ規定ニ依リ保證金ノ増加ヲ命セラレタル場合ニ於テ指定シタル期限内ニ之ヲ納付セザルトキ

移民取扱人前項ノ處分ヲ受ケ又ハ營業ヲ停止シ若シ廢止シタルトキト雖モ出向セシメタル移民ニ對シテ義務ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十一條 移民ト移民取扱人トノ間ニ起リタル紛争ニ關シテハ農商工部大臣之ヲ決定ス

第十二條 出向ノ許可ヲ受ケ又ハ不正ノ手段ヲ以テ許可ヲ受ケ又ハ出向禁止命令ニ違背シタル移民ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 移民取扱人許可ヲ受ケサレバ代理人ヲシテ其ノ行為ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行為ヲ爲シタル代理人亦同シ

第十四條 第五條第一項、第七條、第八條、第九條ノ規定ニ違背シ又ハ法令ニ違背シタル移民ノ出向ヲ廢止シ若シ出向禁止命令ニ違背シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 許可ヲ受ケシテ移民取扱人タルノ行為ヲ爲シタル者及代理人又ハ營業停止ノ處分ニ違背シタル移民取扱人及代理人ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ又ハ出

向ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

移民取扱人ニ非スシテ前項ノ行為ヲ爲シタル者亦同シ

第十七條 本法ノ罰則ハ移民會社ニ在リテハ其ノ各條ニ據テ施行シタル會社ノ代表者ニ對シテモ亦之ヲ適用ス

第十八條 第十二條乃至第十七條ノ規定ニ依リ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

第十九條 本法ヲ施行スルニ必要ナル命令ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第二十條 本法及施行細則ノ規定ニ依リ處分ハ外國ニ關スルヲ以テ日本統監ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

附則

第二十一條 本法ハ光武十年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

● 移民保護法施行細則

明治三十九年七月二十九日  
統監府告示第七十四號

明治三十九年七月二十八日臨時政府ニ於テ公布シタル移民保護法施行細則譯文ノ如シ

第一條 移民出向ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ出向地名、出向ノ目的及出向年限ヲ詳記シ農商工部大臣ニ出願スヘシ

第二條 移民取扱人ニ依リ移民ノ出向ニ關シテハ移民取扱人ハ前條ノ願書ニ連署スヘシ

移民取扱人ニ依ラサル移民ノ出向ニ關シテハ農商工部大臣ハ其ノ出向ノ地位ニ依リ前條ノ願書ニ二人以上ノ保證人ヲシテ連署セシムルコトアルヘシ

前項保證人ハ移民保護法第六條ニ規定シタル移民取扱人ノ義務ヲ負フ

第三條 移民労働契約ニ依リ出向セムトスルトキハ其ノ願書ニ移民保護法第九條ニ規定セル契約書ヲ添付スヘシ

農商工部大臣ハ契約書ニ禁止シタル國ニ對シテハ契約書ニ出向ノ許可ヲ得ス

第四條 移民取扱人タラントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ農商工部大臣ニ出願スヘシ

一 營業所

二 營業資本金額

三 營業期間ヲ定ムルモノハ其ノ期間

四 移民ヲ出向セシムヘキ土地及其ノ土地ノ事情

五 移民ノ目的

六 取扱ヘキ移民ノ確定人員

七 移民ノ出向前後ニ於ケル周旋ノ方法

八 出願者ノ履歴及財産

會社ニ在リテハ會社ノ資本額ニ其ノ代表者ノ氏名、履歴及財産

前項第二號及第四號乃至第七號ニ規定セル事項ニ變更ヲ生シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ前項ノ手續ニ準シ更ニ許可ヲ受ケヘシ

移民取扱人ノ營業ヲ相續シ又ハ讓渡ケムトスル者ハ本條ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ願書ニ代理人ノ履歴及財産ヲ詳記シタル書面ヲ添付スヘシ

第六條 移民取扱人ハ左ノ事項ニ付テハ其ノ事項ノ發生後該ニ農商工部大臣ニ届出スヘシ

一 開業シタル時ハ其ノ年月日

二 營業所、支店又ハ出張所ノ廢置移轉

三 營業期間ノ變更

四 會社ノ代表者ノ變更アリタルトキハ其ノ氏名、履歴及財産

第七條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ全部又ハ一部ハ農商工部大臣ノ適當ト認メタル有價証券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得其ノ有價証券ノ價格ハ農商工部大臣之ヲ定ム

有價証券ノ價格ヲ決定シタルカ爲保證金額ニ不足トシタルトキハ農商工部大臣ハ期限ヲ定メテ之ヲ填補セシムヘシ

前項ノ期間内ニ填補ヲ爲サザルトキハ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

第八條 農商工部大臣ニ於テ移民取扱人移民ニ對シテ義務ヲ履行セシメタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

移民出向地ヲ管轄スル日本官廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シテ義務ヲ履行セシメタルトキハ費用ヲ以テ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシメタルトキハ農商工部大臣ハ直ニ保證金ヨリ其ノ費用ヲ當該日本官廳ニ還付スヘシ

前項費用還付ノ爲ニ要スル費用ハ保證金ヨリ之ヲ支辨ス

第九條 移民取扱人ノ死亡、營業ノ取消又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ農商工部大臣ニ於テ領還ノ必要アリト認メタル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セザルコトヲ得

第十條 移民取扱人ノ營業中又ハ前條ニ依リ保證金領還ノ必要アリト認メタル間ハ其ノ權利ヲ繼承人カ移民保護法又ハ契約ニ基キ有スル權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 移民保護法第七條ニ依リ在留セシムヘキ代理人又ハ代表者ノ所在地ハ農商工部大臣ニ於テ之ヲ指定ス

代理人又ハ代表者ヲ在留セシムルトキ又ハ其ノ歸國、解任若シ死亡シタルトキハ其ノ氏名及在留地ヲ詳記シ其ノ事實ヲ農商工部大臣及在留地ヲ管轄スル日本官廳ニ届出スヘシ

第十二條 代理人業務ヲ行フトキハ代理人タルノ許可書ヲ携帶スヘシ

移民取扱人外國ニ在留スル者代理人ト爲シタル場合ニ於テ其ノ許可書ノ代理人ニ到達スル前ニ業務ヲ行ハシムル必要アルトキハ移民取扱人ノ費用ヲ以テ農商工部大臣ヲ經由シ其ノ在留スヘキ地ヲ管轄スル日本官廳ニ届出スヘシ

第十三條 移民保護法第九條ニ據テ書面契約ニ對シ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ願書ニ契約書ノ全文並ニ移民ヲ出向セシムヘキ土地ノ概況ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

契約書ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一 契約期限

二 雇主ノ氏名住所、労働ノ種類、労働時間及勞賃

三 手数料

四 出向及歸來ノ費用支辨方法

五 出向地ニ於ケル周旋ノ方法

六 疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ救助シ又ハ歸國セシムル手續

第十四條 移民取扱人移民ヲ出向セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ其ノ氏名ヲ農商工部大臣ニ其ノ出向地ヲ管轄スル日本官廳ニ届出スヘシ

第十五條 移民カ他ノ日本官廳ノ管轄區域内ニ轉住シタルトキハ代理人又ハ代表者ハ之ヲ其ノ在留地及居住地ヲ管轄スル日本官廳ニ各別ニ届出

第十六條 移民取扱人ハ毎年六月及十二月ニ出向者名簿、歸國者名簿、死亡者名簿及移民ノ狀況ニ關スル報告ヲ農商工部大臣ニ届出スヘシ

移民出向地ニ在留スル代理人又ハ代表者ハ前項ノ時期ニ其ノ地位ニ於ケル移民ノ狀況ヲ其ノ地ヲ管轄スル日本官廳ニ届出スヘシ

當該日本官廳ハ何時タリトモ必要アル場合ニ於テハ代理人又ハ代表者ニ對シテ移民ノ狀況ヲ届出シムルコトヲ得

第十七條 第四條第二項第三項、第六條、第十一條第二項、第十二條第一項、第十四條、第十五條、第十六條第一項第二項ノ規定又ハ第十六條第三項ノ命令ニ違背シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

附則

第十八條 本令ハ移民保護法施行ノ日ヨリ施行ス

● 清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

明治二十九年四月十三日  
法律第八十號 外大臣副署

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

臣民該地方ノ安寧ヲ妨害セムトシ又ハ該地方ノ風俗ヲ擾亂セムトスル者アルトキハ一年以上三年以下ニ在留スルコトヲ禁止スヘシ

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若シ期限内退去シ難キ正當ノ理由アリテ其ノ旨ヲ申立タルトキハ領事ハ相當ノ預備期



第三條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以內ニ領事ヲ經テ外務大臣若ハ駐劄帝國公使ニ該命令取消ノ申請ヲ爲コトナシ得  
但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セズ

第四條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ外務大臣若ハ駐劄帝國公使ハ其ノ事實ヲ審査シ領事ノ命令ヲ認可シ若ハ之ヲ取消スヘキ命令ヲ爲スヘシ其ノ命令ハ確定ノモノトス

第五條 在留ヲ禁止セラレタル者營業上若ハ其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ地ヲ去リ難キ事情アリト認ムルトキハ領事ハ其ノ期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第六條 保證金ヲ出シ在留ノ許可ヲ得タル者其ノ期限内再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ其ノ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ

第七條 在留禁止ヲ命セラルタル者改悛ノ狀アルトキハ領事ノ何時ニテモ職權ニ依リ又ハ所轄地方長官ノ證明ニ依リ該命令ヲ取消スコトヲ得

第八條 退去期限若ハ猶豫期限内ニ退去セザル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十日以上月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附則  
第九條 明治十六年第九號布告及明治十八年第二十六號布告ハ此ノ法律實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●居留民團法  
明治三十八年三月八日  
法律第四十一號 總務大臣 副署  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ居留民團法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

居留民團法  
第一條 專管居留地、各國居留地、雜居地其ノ他ニ住居スル帝國臣民ノ狀態ニ依リ外務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ住居スル帝國臣民ヲ以テ組成スル居留民團ヲ設立スルコトヲ得

居留民團ノ設置分合又ハ其ノ地區ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 居留民團ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法令又ハ條約ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務及法令、條約又ハ慣例ニ依リ之ニ關スル事務ヲ處理ス

第三條 居留民團ニ委員及居留民會ヲ設ク

第四條 居留民會ノ組織、居留民團委員又ハ居留民會議員ノ任免、選舉、任期、給與及職務權限等ニ關スル事項並居留民團ノ財產、負債、營造物、經費ノ賦課徵收及會計ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 居留民團ハ領事、公使及外務大臣順次ニ之ヲ監督ス但シ土地ノ情況ニ依リ第二次ノ監督ヲ省略スルコトヲ得

前項監督ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 居留民團設立ノ際其ノ地區內ニ住居スル帝國臣民ノ共同財產及負債ノ處分其ノ他本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●居留民團法施行規則  
明治三十九年七月十四日  
統監府令第二十一號

居留民團法施行規則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 居留民團ノ設置分合又ハ其ノ地區或名稱ノ變更ハ統監之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ國務會議員會又ハ之ニ準スヘキモノノ意見ヲ聽シ理事官之ヲ定ム

第二條 居留民團ノ地區內ニ住居スル者ハ其ノ居留民トス

居留民ハ居留民團ノ財產及營造物ヲ使用スル權利ヲ有シ其ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第三條 居留民團ハ法令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區內ニ住居スル外國人ヲ保護スル義務ヲ負フ

第四條 居留民團ハ居留民ノ權利義務及居留民團ノ事務ニ關シ居留民團規則ヲ設クルコトヲ得

第二章 居留民團委員

第五條 居留民團ニ委員一名ヲ置ク

委員ノ任期ハ三箇年トス

委員ハ居留民會ニ於テ之ヲ選舉シ統監ノ認可ヲ受ケヘシ

第六條 委員ハ居留民團ヲ統轄シ之ヲ代表シ及其ノ行政事務ヲ擔任ス

第七條 委員ハ居留民團委員ヲ指揮監督シ及之ニ對シ懲戒ヲ行フ其ノ懲戒處分ハ十圓以下ノ過怠金及罷免トス

第八條 居留民團ニ助役及會計役一名ヲ置ク但シ居留民團規則ヲ以テ之ヲ置カサルコトヲ得

助役及會計役ノ任期ハ三箇年トス

第九條 助役ハ委員ノ認可ヲ受ケヘシ

第十條 會計役ハ居留民團ノ會計事務ヲ掌ル

會計役ヲ置カサル居留民團ニ在リテハ前項ノ事務ヲ代理ス

務ノ理事官ノ定ムル所ニ依リ市長、助役又ハ書記之ヲ兼掌ス

第十一條 居留民會ハ會計役又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ會計事務ヲ掌ル者若ハ助役アルトキ之ヲ代理スヘキ委員ヲ選定シ理事官ノ認可ヲ受ケヘシ

第十二條 居留民團ニ書記ヲ置キ市長之ヲ任免ス

書記ノ定數ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 書記ハ市長ノ命ヲ承テ庶務ニ從事ス助役ハ書記ヲ以テ居留民團ニ於テ市長事務ヲ代理ス

第十四條 居留民團委員ハ有給トス

第三章 居留民會

第十五條 居留民會議員ノ定數ハ八人以上二十四人以下ニ於テ理事官之ヲ定ム

第十六條 居留民會ニシテ公權ヲ有スル滿二十五年以上ノ男子一年以來其ノ居留民團額五圓以上ヲ納ムル者ハ選舉權ヲ有ス但シ禁治產者及準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 選舉權ヲ有スル居留民ハ被選舉權ヲ有ス但シ左ニ掲ケル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 官吏及居留民團委員

二 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師

三 學校教員

第十八條 居留民會議員ハ名譽職トス

第十九條 居留民會議員ノ任期ハ二箇年トス

第二十條 現在ニ依リ選舉人名簿ヲ編製スヘシ

選舉人名簿ニ登錄セラレサル者及登錄セラレタルモ選舉權ヲ有セザル者ハ選舉ノ參與スルコトヲ得ス

選舉人名簿編製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ユ

選舉人名簿ハ其ノ編製ノ日ヨリ一箇年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ユ

第二十一條 市長ハ選舉ノ期日ヨリ少クモ七日以前ニ選舉會場ヲ設キ日時及議員數ヲ告示スヘシ

市長ハ選舉事務ヲ統轄シ及選舉會場ヲ取締ニ任ズ

第二十二條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ニハ議員定數ノ二分ノ一ヲ被選舉人ノ氏名ヲ記載シ選舉人自ラ氏名ニ之ヲ差出スヘシ

投票ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス投票用紙ハ一定ノ式ニ依リ市長之ヲ編製シ及配付スヘシ

第二十三條 居留民會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ當選者トス但シ其ノ得票ノ數五票ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

市長ハ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セタルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ依リ之ヲ補充ヘキ當選者ヲ定ム

第二十四條 市長ハ選舉會場ヲ編製スヘシ

選舉ノ終了タルトキハ市長ハ直ニ選舉簿ノ原本ヲ添ヘテ理事官ニ報告スヘシ

第二十五條 居留民會議員中兩員ヲ生シ其ノ兩員ノ對議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキハ補選選舉ヲ行フ

第二十六條 前項ノ補選ニ關シ其ノ補選ノ期日ハ前項ノ補選ノ期日ヨリ少クモ三日以上三日以下ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條 補選ハ會議ヲ統轄シ取締ノ取締ニ任ズ

第二十八條 居留民會ハ市長之ヲ招集シ及開閉

招集及會議ノ事項ハ開會ノ日ヨリ少クモ三日以上三日以下ニ於テ居留民會議員ニ告知スヘシ但シ急務ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 居留民會成立セズ、招集ニ應ゼズ又ハ會議規則ノ規定ニ依リ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ理事官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得居留民會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セザルトキハ亦同シ

居留民會ノ議決スヘキ事件ニ關シ其ノ開會中ニ於テ臨時急務ヲ要スルモノアルトキハ市長ハ之ヲ處分スルコトヲ得

前二項ノ處分ハ大同ノ會議ニ於テ之ヲ居留民會

第三十條 居留民團ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ理事官ノ認可ヲ受クヘシ...

第三十一條 居留民團ハ不動產又ハ積立金ヲ以テ基本財産ヲ設置スヘシ...

第三十二條 居留民團ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テ...

第三十三條 居留民團ハ居留民團稅、使用料、手数料及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得...

第三十四條 居留民團ニ非ズト雖居留民團ノ地區内ニ於テ土地、家屋、物件ヲ所有シ使用シ若ハ占...

第三十五條 居留民團ノ地區内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ特別ノ負擔ヲ爲サシメ又ハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得...

第三十六條 居留民團稅、使用料、手数料、物料、過意金其ノ他居留民團ノ公課ヲ定期内ニ納付セ...

第三十七條 居留民團ノ公課ノ指定シテ之ヲ徵收スヘシ其ノ期限内ニ之ヲ納付セザルト...

第三十八條 居留民團稅、使用料、手数料及營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル事項ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定ム...

第十四編 外交 第四章 渡航及在留

第三十九條 居留民團ノ設立ノ場合ニ於テ...

第四十條 居留民團ノ設立ノ場合ニ於テ...

第四十一條 居留民團ノ設立ノ場合ニ於テ...

5W44

明治三十九年八月二十一日  
統監府告示第八十六號  
來九月一日左記居留民團ヲ設立ス

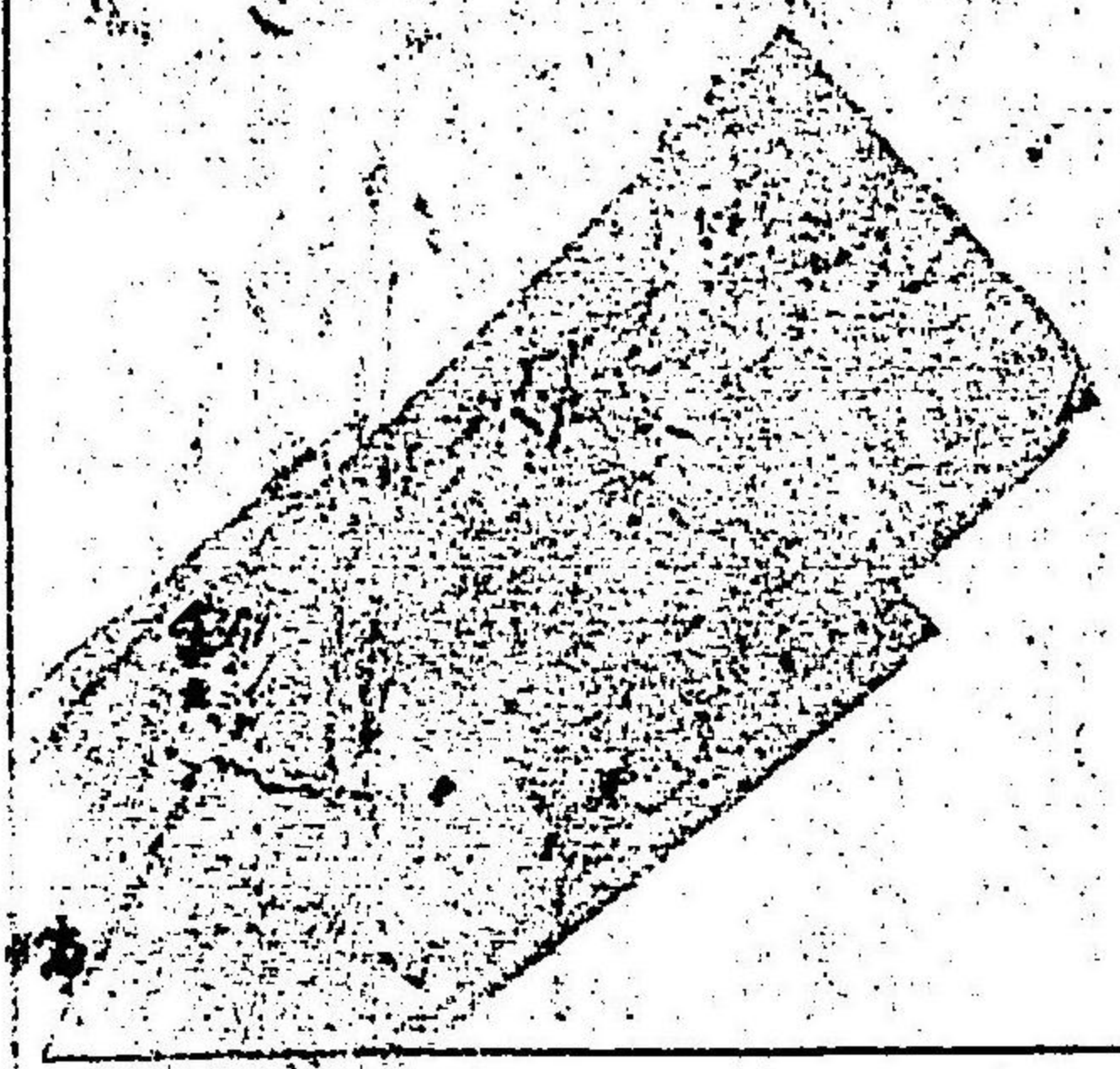
名山居留民團  
名山日本居留地一團  
同居留地外一帯ノ地域  
山田及隣日里ヲ以テ其ノ境  
界線トス但シ其ノ各地ハ本  
地ニ屬ス

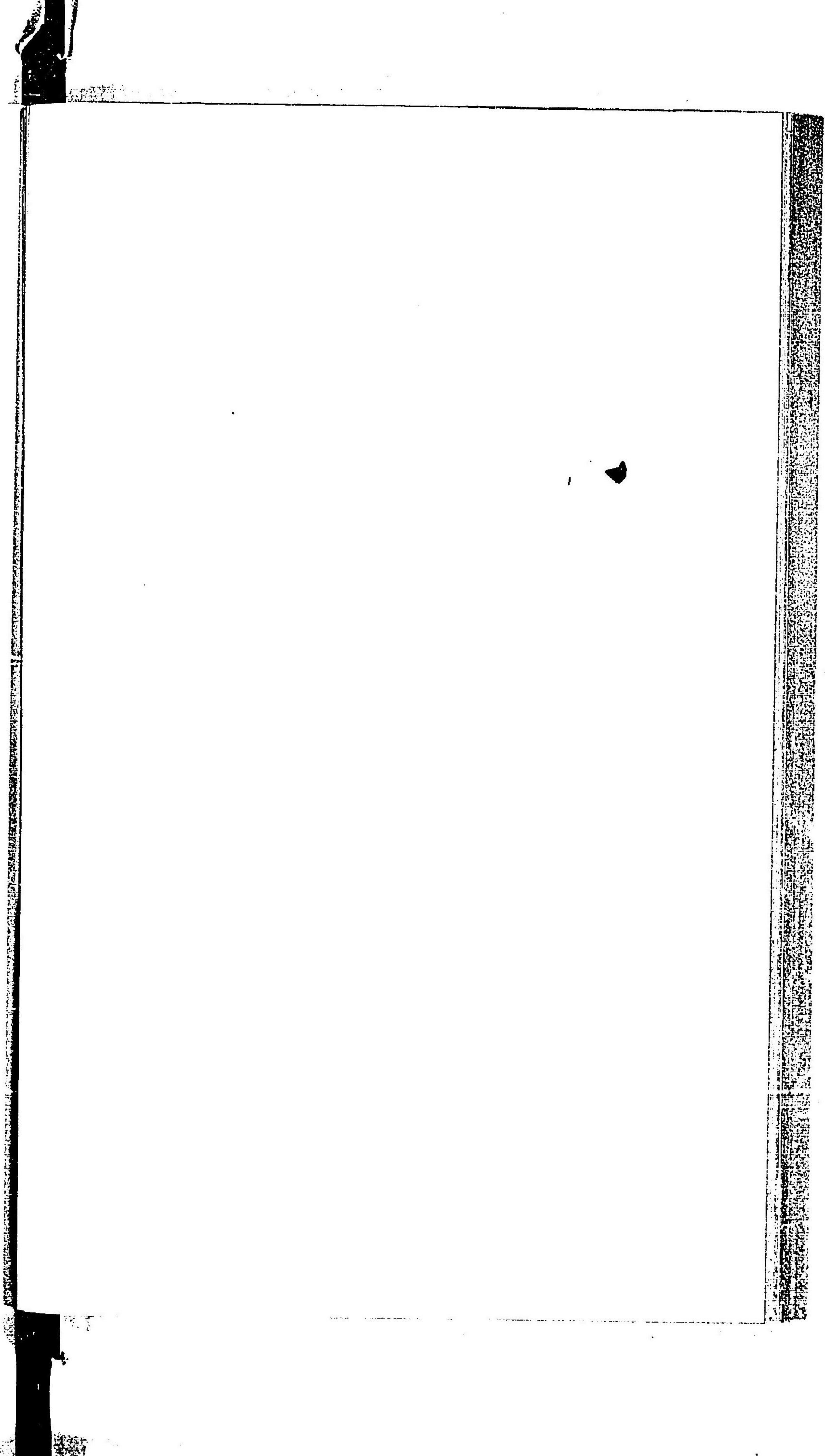
明治三十九年八月二十六日  
統監府告示第九十號  
來九月一日左記居留民團ヲ設立ス

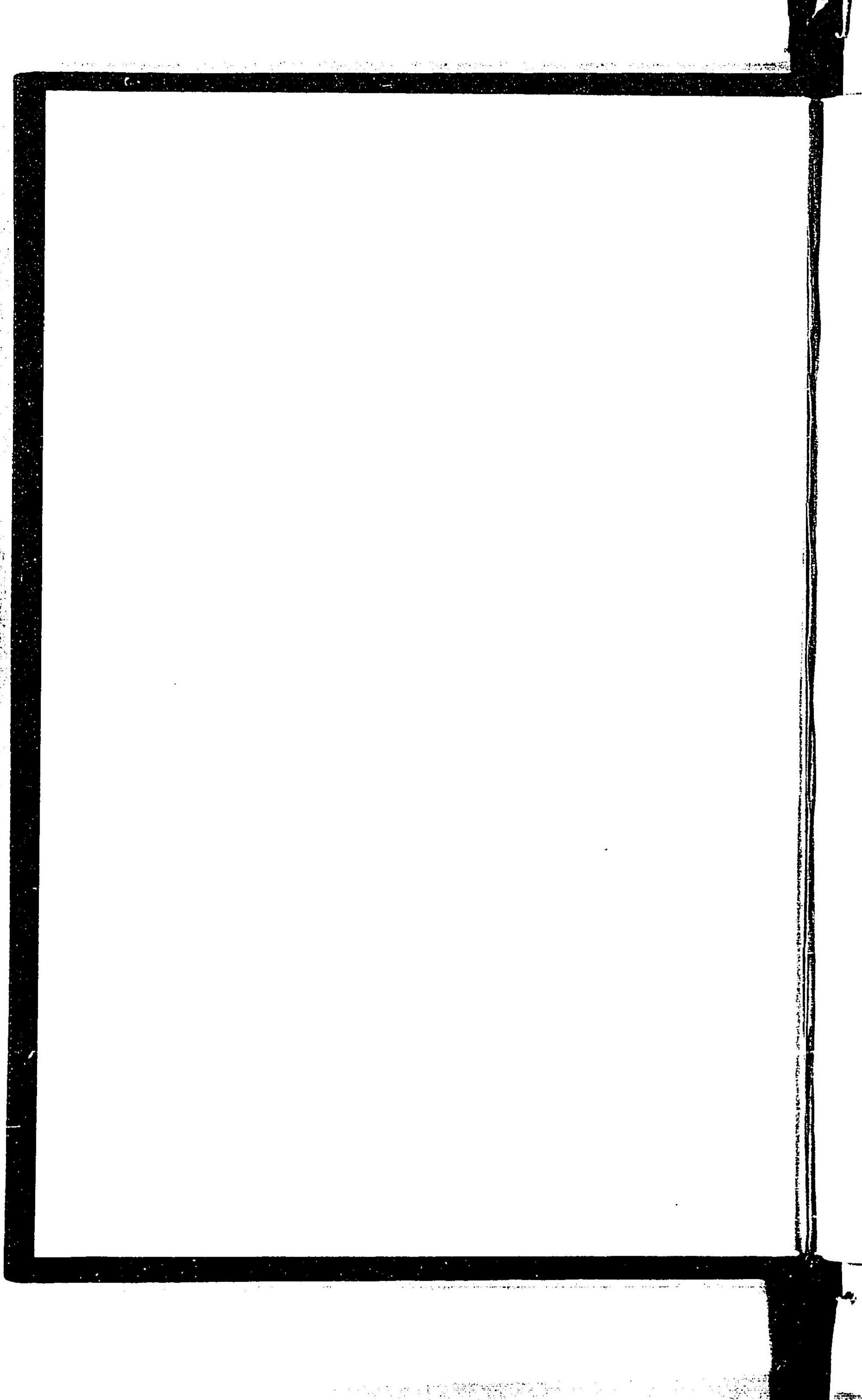
馬山居留民團  
馬山浦各國居留地一團及其ノ  
境界線ヨリ十韓里以內ノ地

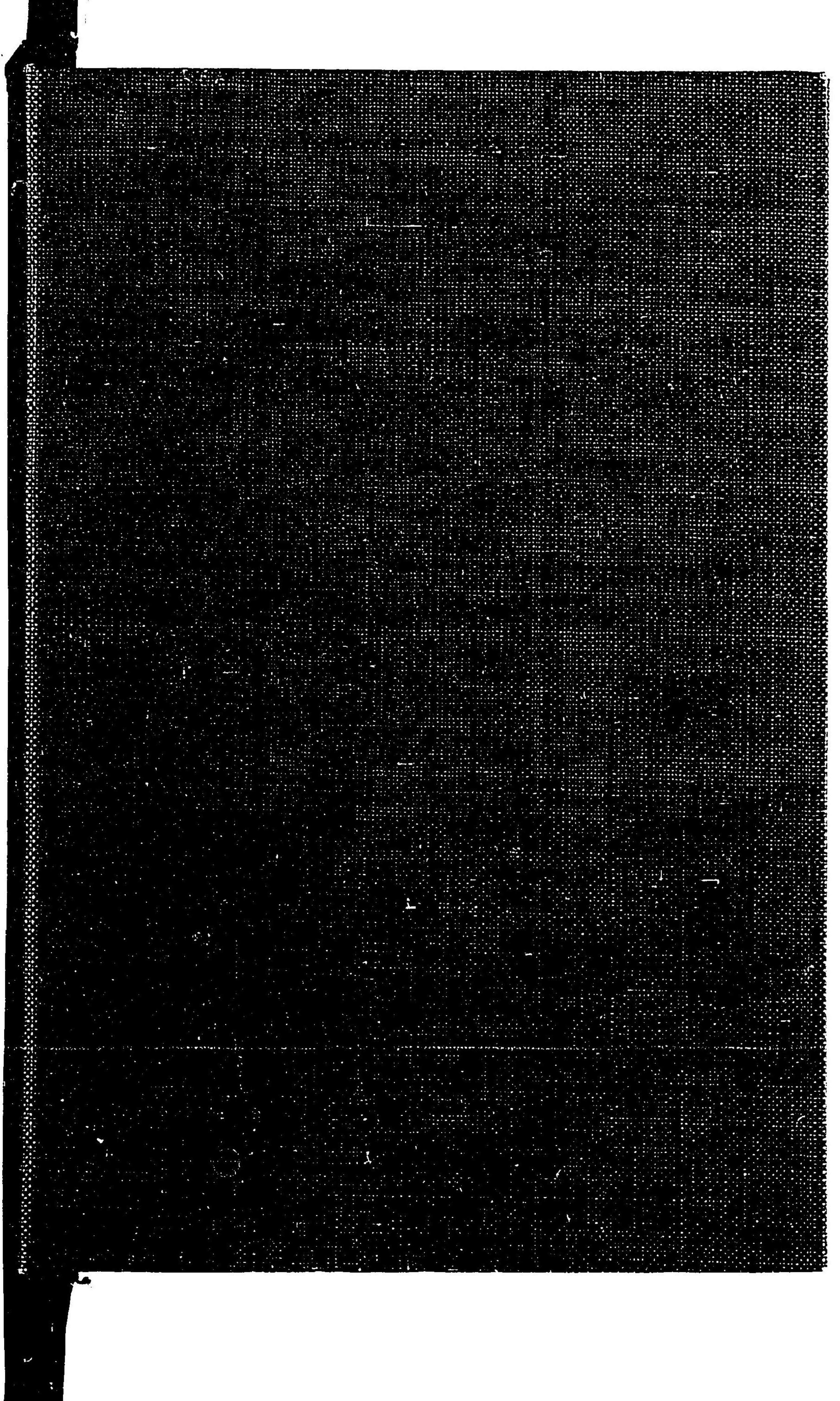
明治三十九年十月二十五日  
統監府告示第一百八號  
來十一月一日左記居留民團ヲ設立ス

大邱居留民團  
大邱城內一團  
大邱城外一帯ノ地域  
津、唐洞、及上里ヲ以テ其ノ  
境界線トス但シ其ノ各地ハ  
本地ニ屬ス









030958-001-7

CZ-3-5

現行法令輯覽

内閣書記官室記録課/編

M40-45

BBC-0318



